会員となって、
一緒に活動しませんか？

和光市くらしの会

昭和４２年（１９６７）に和光市で最初に産声をあげた消費者団体です。以来 “健全な生活の確立”をめざし、消費者としての権利を守り、消費生活の改善、向上をモットーに活動してきました。

主な活動として、不用品交換会の開催、消費生活展・市民まつりへの参加、視察研修、斡旋物資の販売による環境を考えた製品の普及への取組み等を行っています。和光市コミュニティ協議会の構成団体としても活動しています。

和光市くらしの会 活動の基本方針
1　自然を大切に
2　安全性の追求
3　合理的なくらし

視察研修

視察先　一覧	
NEW 令和５年度	明治なるほどファクトリー サイボクハム・醤遊王国
30年度	アサヒビール茨城工場 牛久大仏
29年度	グリコピア・イースト 武州中島紺屋
28年度	キューピーマヨネーズ五霞工場・草加　丸草一福
27年度	ガトーフェスタ　ハラダ・ こんにゃくパーク

醤遊王国本店・日高工場

国産の原料を使い、自然の温度変化に委ねた天然醸造を守り続けていました。

木樽で一年かけてじっくり発酵・熟成させ、蔵独自の微生物が棲み付く杉製の大桶で長時間、発酵・熟成させた香り良い・コクのある醤油です。原料は大豆・小麦・塩が用いられています。

【令和5年度視察研修】　食の安全を考えた事業所に行きました。

株式会社　埼玉種畜牧場・サイボクハム

「本物」の食と健康を・・・緑の牧場から

サイボクの牧場から出た堆肥は

『サンライト』という肥料になります。

高い衛生管理が認められ、サイボクファーム（旧　東北牧場）と鳩山牧場では農場HACCP の認証を取得しています。

Point!

HACCP（ハサップ）とは？

危害要因（微生物、化学物質、異物など）を防止するための管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録を行うことにより農場段階で危害をコントロールする、飼養衛生管理のことです。

地元農家の朝採り野菜は、この堆肥を使用して生産しています。

完全一貫経営

自社牧場産の原料を使ったハム・ソーセージの加工、販売部門、パン工房、レストランまでを有する**完全一貫経営**が特徴

明治なるほどファクトリー坂戸

出典：明治なるほどファクトリー坂戸ホームページ

チョコレートの原料であるカカオ豆のことやチョコレートの歴史や栄養・健康効果などを、楽しく学びました！

明治坂戸工場では、10 万平方メートル（東京ドーム 約 2 個分）の敷地があり、チョコレートやグミなどを中心に生産を行っています。

「アポロチョコレート」は明治の数ある工場の中で、坂戸工場でのみ生産されています。

©明治製菓

H31 から新型コロナ感染症を懸念し中止となっていましたが、R５ には視察研修を再開することができました！

互助の取り組み

市の審議会等の委員活動

くらしの会は、地域活動や行政の事業に関わる
様々な審議会等に委員として参加。
より良い地域づくりを目指しています。

くらしの会役員が参加している外部委員等

団体・審議会名	委員数
和光市コミュニティ協議会	７名
和光市消費者団体連絡会	２名
和光市廃棄物減量等推進審議会	１名

PICK UP！

コミュニティ協議会

人との「ふれあい」を大切にすることで住みよい環境づくりを目指します。５つの委員会と１つの実行委員会で活動しています。

活動の一部をご紹介！

あいさつ運動（青少年問題対策委員会）

明るく元気に登校できる環境づくりのため、小・中学校の通学路で子どもたちの登校を見守り、声掛けを行っています。

つるし雛教室（美しいまちづくり推進委員会）

良縁・長寿・無病息災を願って軒先などに飾られる「つるし雛」。地域をあたたかく彩る縁起物です。年に数回、幅広い年代が集まる制作教室を開催しています。

わこうっちかるた体験（市民ふれあい委員会）わこう郷土かるた「わこうっちかるた」を通じて、子ども達と触れ合うことにより、地域の子ども達との交流を深め、地域の見守りにつなげる活動を行っています。

新倉に伝わる七夕飾り「まこも馬」

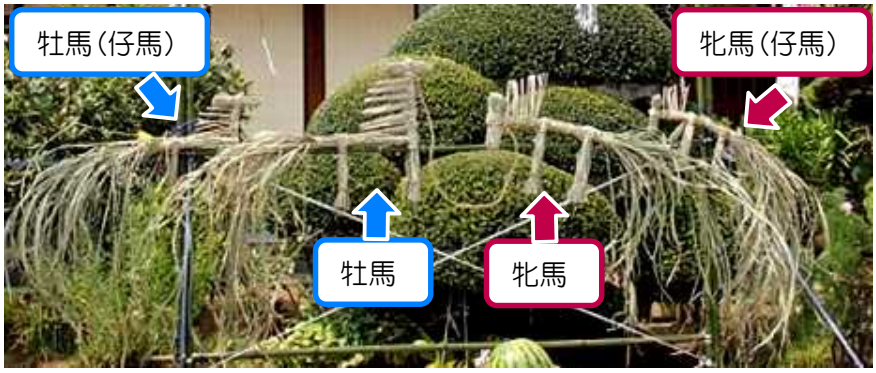
【写真提供：和光新聞】

【本多家の庭先に飾られた七夕飾りの様子】

向かって左側の頭を高く上げているほうが牡馬（ぼば）で、右側の頭を下げているほうが牝馬（ひんば）です。大きな馬の後ろに飾られた一回り小さい馬は、仔馬（こうま）です。大人の馬は七夕が終わると厄落としで川に流してしまいますが、仔馬（こうま）は来年のまこも馬づくりのために残しておくそうです。

「七夕」と言えば、７月７日に短冊や吹流しなどを笹竹に飾り、星に願いをかけることが一般的ですが、埼玉県をはじめとする東京都、千葉県など関東の各地では、馬の飾りを作って供える習慣がありました。

「七夕馬（たなばたうま）」とも呼ばれるこの馬は、夏の水田や河川、沼などに生い茂る「真菰（まこも）」を編んで作られているため「真菰馬（まこもうま）」と言われます。



埼玉県南西部から南東部、お隣の板橋区などでは、旧暦の七夕に、庭に笹飾りを立てて、軒下に牡馬（ぼば）と牝馬（ひんば）の２頭を向かい合わせに飾り、その手前に畑で採れたスイカやウリ、トマト、キュウリ、カボチャ、トウモロコシなどの旬の野菜などと一緒に、おまんじゅうも蓑に入れて、五穀豊穣を祈願してお供えをしました。

和光市でも昭和 30 年代ごろまでは、多くの家でまこも馬を作り、軒先に飾っている風景が見られたそうです。以前は、水田の用水路や貯水池でたくさん採れた真菰ですが、水田が減り真菰も減ると、このまこも馬も姿を消していきました。

この写真のまこも馬を作った、和光市くらしの会の会員である本多さんは、地域の伝統行事である七夕のまこも馬づくりを子どもたちに伝えるため、地域の子ども会での伝承活動も行っています。